

2026 年 5 月 25 日

2026 年度 第 2 回 (通算第 13 回) 地域審判トレーニングセンター レフェリーアカデミー【北海道】 事業報告書

報告者：鈴木 辰汰 (オホーツク地区)

【日 時】 2026 年 5 月 9 日 (土) 5 月 10 日 (日)

【会 場】 帯広大谷高校、帯広市森の里コミュニティセンター

【参加者】 審判員：伊藤唯翔、二谷夢翔、高橋陽斗、鈴木辰汰

インストラクター：古曾部統太郎氏 (RAM) 今川一輔氏 (RAI) 伊藤真也氏 (RAI)
岡田渉氏 (RAI)

【テーマ】「志高く」

5 月 9 日 (土)

13:10 集合 帯広市森の里コミュニティセンター

13:10 フィジカル講義 W-up&Recovery「試合・トレーニング前後」 担当：岡田 RAI

普段感覚で行っているウォーミングアップとリカバリーを言語化し整理した。それぞれのタイミングで何を目的として行うのか、意味を理解して行うことを学んだ。また、ウォーミングアップとリカバリーは惰性になったり、蔑ろになったりしてしまいがちだが、丁寧に行うことがレフェリングに直結するため、意識的に行わなければならないと感じた。



14:10 「実録！マンマネジメント」 part2

アカデミー 1 年目にも行った講義の応用編であった。今回は競技者とのコミュニケーションで意識した言葉遣いや姿勢に関して振り返った後、選手役と審判役に分かれて実際の試合で起きたことを再現し、マネジメントの実践のようなものを行った。審判の役割だけではなく、競技者の役割も自分たちで行ったことで、実際にどのような印象を受けるのか、選手が何を考えているかを感じることができ、学びの多い講義となった。



15:30 Physical check 「sprint&yo-yo test」

結果 40m sprint 参加者平均 5.28 秒

yo-yo test 参加者平均 52.6 本



17:10 諸連絡・解散

5月10日（日）

7:50 集合 帯広大谷高校

9:00 試合実践 U18 ブロックリーグ道東2部 帯広工業高校 vs 帯広大谷高校 2nd

R：高橋 A1：岡田 RAI A2：鈴木 4th：伊藤

試合前のアップは岡田 RAI と一緒に前日の講義で学んだウォーミングアップをおこなった。

〈自己分析〉

前日のフィットネスの疲れが響かないように前日のケアをしっかりとし、当日のウォーミングアップでは岡田 RAI の実践もあって、いつもより充実した準備で試合に臨むことができた。試合を通して大きく難しい判定はなかったと感じていて、前回のアカデミーであったバッティングに似た事象があったが、前回の学びを生かして正しく判定できたのは良かったと感じた。



〈INS 分析〉

これまで指摘してきた改善点がしっかりと克服されていると感じました。また、アカデミーで行った講義やセッションを理解し、しっかりと自分のものしている姿は頼もしく思います。今後は社会人や学生の試合などになってきます。これまで経験し改善してきたものを、自信を持って出してくれたらと思います。

11:00 試合振り返り

12:00 昼食

13:10 講義① 「上級審判員より」 担当：宗像瞭 1級審判員

宗像氏の経験を基に私たちがより高いレベルの審判員になるために必要なことを学んだ。特に、「応援される人」になること、「成長し続けること」が大切で、その為に自分のできることを行うということを学んだ。自分の審判活動をしっかりと見つめ直し、次のレベルに向かうために必要なことを考えることができた。



14:10 プレゼンテーション 「探究」のテーマ発表

今期から始まる審判活動における探究活動のテーマを発表した。1年かけて自分で設定したテーマについて、仮説→検証（実践）→新たな課題の発見のサイクルを繰り返すことで、設定したテーマについて深く考察する活動である。

9月の中間発表に向けて、テーマや検証方法などの改善点を指摘してもらい、自分のテーマをブラッシュアップしていくことを確認した。

【探究テーマ】

伊藤：「どのようなことをしたら、身長の高いレフェリーでも毅然さや権威を示すことができ試合をコントロールできるか」

高橋：「判定における“選手の納得感”とは」～理想のゲームに近づける～

二谷：「審判員は何にストレスを感じるのか」～審判員の心理的負担に着目して～

鈴木：「トップパフォーマンスを出すために自分が今できることは」～睡眠やケアから考える～

15:10 講義② 主審と副審の協力 担当：古曽部 RAM

実際の2種の試合の事例（ボールパーソンがフィールド内でボールに触れる）を基に、審判団の協力とはなにか？ 判定の納得感とは何か？を考えた。正しい判定と再開方法の整理から、競技者をはじめベンチ役員などに何が起こったかを理解してもらうための行動などを、ディスカッションを通して考えた。対応を後回しにせずそのタイミングで行動を起こすことが一番大切であることを学んだ。

15:50 諸連絡・解散

